

1. 単元名 Unit5 A Legacy for Peace (New Horizon English Course 3(東京書籍))  
What did Gandhi leave us behind?

2. 単元について

本単元では、インドの民族独立運動の最高指導者であるガンディーの運動が取り上げられている。自分の身体を犠牲にしても主張しつづけた彼の非暴力を基本とした独立運動について書かれた英文を読むことを通して、「理不尽なことに屈しない心」や「暴力に訴えない行動」について深く考えることのできる単元である。私たちの暮らしの中に当たり前のようにある平和や人権について、見つめ直すきっかけを与えたい。また、ガンディーの教えや意志を受け継いだ多くの政治家や活動家の存在を知り、後世に影響を与えた人々の生き方と照らし合わせて自身の理想とする生き方についても考えを深めさせたい。

言語材料としては、関係代名詞の諸用法が扱われている。これまで生徒たちは、前置詞句による後置修飾や、不定詞による後置修飾、現在分詞や過去分詞による後置修飾などを学習してきた。それらの知識も振り返りながら関係代名詞の学習に取り組ませたい。関係代名詞を用いた言語活動を通して、人や物をさらに具体的に説明する方法について理解させるとともに、簡単な自己表現ができるようなところまで指導していきたい。

3. 生徒の実態について

本校の生徒は、英語を使ってコミュニケーションを取ろうとする意欲が高い。日常的に行うスモールトークではペアで英会話に取り組み、お互いに英語を用いて意思疎通を図ろうとする姿が多く見られる。トピックに関する自身の経験や考えなど、自分のことを自分なりの英語で伝えようとしている。ペアや小グループでの言語活動においても、積極的に英語を発話しようとする生徒がほとんどである。一方で、学級全体での発言や正誤が明らかになる発問に対しては、発言することにためらいを感じている生徒も多い。授業では、教科書本文から読み取った情報や聞き取った情報の正確さを確認する事実発問だけでなく、推論発問によって行間を読ませたり、評価発問によって生徒の自由な発想を引き出したりすることを意識したい。

全体研究で実施したアンケート結果によると、本校3学年の生徒は外国語の学習に対して高いエンゲージメントを持っている。「外国語の学習を楽しんでいる」「外国語の学習方法を工夫している」「外国語の学習に一生懸命に取り組んでいる」の3項目について、生徒たちは肯定的に回答している。一方、特定の教科に限らず、「学習する時は最初に計画を立ててから始めますか?」や「学習している時、たまに止まって、一度やったところを見直しますか?」という設問に対しては、否定的に回答している生徒が多い。学習や課題に取り組む際、ゴールを意識し、それに向かって方略を計画することを経験させる必要があると言える。また、学習の過程で自身の達成度を振り返ったり、学習がうまくいっているかどうかについて内省したりする機会を持たせることも必要だろう。こうした経験を英語科でも積ませることにより、教科や分野に関わらず、主体的に学習に取り組むことができる生徒を育成することができると思われる。

4. 単元の指導について

(1) 全体研究との関わり(「主体的な学び」のプロセスモデルを意識させた学びを実現するための手立てについて)

① 本単元における「主体的な学び」の姿

本単元において、中心となる技能は「話すこと(発表)」である。インドの民族独立運動を牽引したガンディーの非暴力の理念を理解することを通して、日本では当たり前のように保障されている人権や平和について考えを深め、志をもって活動した人々の生き方と照らし合わせた自身の理想の生き方について思いを巡らせたい。そのためには、ガンディーの生涯や功績として語られる事実のみの読み取りに焦点を当てるのではなく、当時の社会状況や独立を成し遂げるまでの困難さ等について、教科書の行間を読ませることで、理解を深めさせたい。また、パフォーマンス課題では、自分を含めた多くの人々に影響を与えた有名人や著名人を紹介することを通して、その人物の生涯や功績を知り、それらは後世にとってどのような意義があるのかについて考えさせたい。さらに、自身の興味や関心だけでなく、将来の生き方についても考えた内容がパフォーマンス課題から滲み出ることを期待する。これらのことを踏まえ、本単元における「主体的な学び」の姿を以下に示す。

インドの民族独立運動の最高指導者であったガンディーの生涯や功績について関心を持ち、自分を含めた多くの人々に影響を与えた有名人について紹介するために、言語活動や教科書の読み取りを通して英語表現の幅を広げ、後世に影響を与える人々の生き方について考えを深めようと努める姿

前述したアンケート結果から、生徒たちは学習の最初に計画を立てることや学習の途中に一度やったところを見直すことをあまり意識していないことがわかった。本単元においても、単元の最初に学習の見直しを持たせ、毎時の振り返りを実施

することでその有用性を実感させたい。見通しを持たせる指導に関しては、パフォーマンス課題の内容とその評価規準となるルーブリック、期待するbの姿として設定したモデルともなる教師によるパフォーマンスを提示する。これらにより、生徒たちは、単元の学習で目指すパフォーマンス像とそれを実現させるために身につける資質・能力を意識することができるようになることを期待する。

②本単元における「新たな意味や考え方を見出す思考力、判断力、表現力等」

本単元では、単元を通して行う対話的学習活動の1つに、帯活動として取り組む言語活動を実施する。単元末に行うパフォーマンス課題に類似するトピックを生徒に与え、メモをもとに人物を紹介する経験をさせたい。自分に馴染みのある人物から、歴史上の人物や自分以外の人々にとって意義深い人物へと対象を発展させ、パフォーマンス課題への足場がけをしたい。また、言語面での振り返りを重ねることによって、関係代名詞の用法を正しく身につけさせ、人物の細かな情報を伝えるために関係代名詞は有効であることを実感させたい。内容面での振り返りでは、人物の客観的事実の羅列にとどまることなく、自身にとってどのような点を聞き手に伝えたいのか、なぜその人物を紹介したいと思っているのか等について述べるのが重要であることに気づかせたい。回数を重ねることで、内容のブラッシュアップを期待する。発表の際には、メモをもとに、写真を提示しながら簡単な英語で人物を紹介させたい。これまでの学習で、1年次はメモをもとに日本で活躍する外国人を、2年次はスライドを作成して身近にあるユニバーサルデザインの考え方を取り入れた設備、施設を紹介する活動を行ってきた。本単元で取り組むパフォーマンス課題でも、メモとして書き留めておく語句について整理したり、帯活動での試行錯誤を通して、考えの再構築が行われたりすることを期待する。これらのことを踏まえ、本単元における「新たな意味や考え方を見出す思考力、判断力、表現力等」を以下の通りに示す。

これまでに取り組んだ人やものを紹介する学習の成果を踏まえて、帯活動として取り組む言語活動を通して関係代名詞を用いた後置修飾の表現を身につけ、自分を含めた多くの人々に影響を与えた有名人・著名人について発表することができる力
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(2) 教科研究との関わり(『伝える力』を育むための主体性を促す対話的な学習活動の工夫について)

①「主体性」を持って学ばせるための学習活動の工夫

本単元においても、「主体的な学びのプロセスモデル」を単元および一単位時間内に位置付けて計画的に実践する。パフォーマンス課題については、単元のはじめにルーブリックと期待するbの姿でもあるモデルを示すことによって具体的なゴールイメージを持たせ、見通しをもって学習に取り組めるようにする。また、実生活でも起こりうる状況を想定した課題となるようなトピックを設定し、実際の英語の使用場面をイメージできる内容にする。これらにより、生徒は課題解決に向けて自己調整をしながら粘り強く学習し、資質・能力を高めることができるようになることを考える。

②「創造性」を発揮させるための学習活動の工夫

生徒が「創造性」を発揮させるためには、指導者である教師が既習事項を新たな学習へと繋げさせることを意識したい。そのために重要となるのは発問であると考え。新出の言語材料については、これまでの学習で身につけてきた後置修飾の形を振り返らせることが、関係代名詞の学習に有効に働くだらう。分詞や不定詞を用いて名詞の後ろに修飾語句を置く語順は、関係代名詞を用いた文の語順と共通であるため、生徒にとっては理解しやすくなることを考える。主格、目的格の違いはあるものの、関係代名詞のそれぞれの用法を導入する際には、既習事項を想起させる発問を意識して生徒に投げかけた。また、パフォーマンス課題については、帯活動として行う言語活動での「遂行」と「振り返り」で得た気づきが生かされることを意識したい。人物を紹介するという点を軸に据え、少しずつ切り口を変えたトピックを生徒に投げかけ、繰り返し言語活動に取り組ませたい。その際の振り返りでは、言語面での振り返りだけでなく、内容面での振り返りも行わせ、パフォーマンス課題で必要となる「思考力、判断力、表現力等」を徐々に身につけていくことを期待する。さらに、毎時間の振り返りを行わせることを通して、自身の英語表現について課題意識や達成感を持たせ、毎回の言語活動につながりをもって取り組めるようにする。生徒個々の振り返りを共有することにより、自身では気づけなかった新たな英語表現や振り返りの視点に触れることが可能となり、学習成果を新たな学習へと繋げていけるようになることを期待する。

5. 単元の目標

後世の人々に影響を与える人物の生き方について考えるために、ガンディーの生涯や功績について書かれた英文を読み、読んだことをもとに自分の考えを伝え合うことができる。

山梨大学教育学部附属中学校版 CAN-DO リスト(新学習指導要領対応)との関連

	話すこと(発表)
3年生	○社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、自分で作成したメモ等を活用しながら、考えたことや感じたこと、その理由等を、簡単な語句や文を用いて話すことができる。

6. 単元の評価および指導計画

(1) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<知識> ①関係代名詞を用いた文の形・意味・用法を理解している。 <技能> ②ガンディーの生涯や功績について、自分の考えを、関係代名詞などを用いて伝える技能を身につけている。	後世の人々に影響を与える人物の生き方について考えるために、ガンディーの生涯や功績に関する英文を聞いたり読んだりして、考えたことなどを、自分で作成したメモをもとに話している。	後世の人々に影響を与える人物の生き方について考えるために、ガンディーの生涯や功績に関する英文を聞いたり読んだりして、考えたことなどを、自分で作成したメモをもとに話そうとしている。

※各観点の名称については、記述の便宜上、以下のようにする。

知識・技能:知      思考・判断・表現:思      主体的に学習に取り組む態度:主

(2) 評価方法

①授業の振り返りシート(ロイロノートでやりとりする電子データ)の活用

単元の途中に行う言語活動の振り返りをさせることにより、パフォーマンス課題に向けて「粘り強く」学習に取り組む姿勢や「自己調整」している様子を指導者だけでなく学習者本人も把握できるようにする。クラウド上のサービスを活用し、振り返りシートをデジタル化することによって生徒教師間のやり取りを簡略化させ、提出状況を容易に確認できるようにしたい。また、教師から適宜コメントを返すことにより、振り返りの観点を学習者に気づかせたり振り返りの精度を高めたりすることが可能となる。さらに、他者の振り返りを共有することで、様々な振り返りの視点の気づきを促すことができると考える。

②ルーブリックを用いたパフォーマンス評価

パフォーマンス課題を評価するための規準として、パフォーマンスの正確さ及び適切さについてルーブリックで示すことにより、単元の学習を通して「何ができるようになる」のかということについて、また、課題をクリアするためには「何を意識して学習活動に取り組めばよい」のかということについて指導者だけでなく学習者にも把握できるようにする。さらに、パフォーマンス評価をすることによって、単元の学びを通して身に付けた資質・能力を見取ることができる。と考える。

(3) 指導計画(全9時間)

時間	○ねらい・学習活動	主体的な学びのプロセスモデル	評価規準			評価方法
			知	思	主	
1	○単元を中心となる内容について理解し,単元の学習に見通しを持つことができる。 ・Previewの内容理解	目標設定 方略計画				記録に残す評価は行わない。 ただし,活動の様子の観察や,ワークシートへの記述,振り返りシートへの記述をもとに,指導に生かす評価は毎時行う。
2	○接触節の形,意味,形式を理解し,運用することができる。 ・Unit5 Scene1の内容理解 【帯活動①】Who is your favorite person? <内容面>人物に関する客観的事実が述べられているか。 <言語面>接触節を正しく使えているか。	遂行 振り返り				
3	○関係代名詞(主格 who)の形,意味,形式を理解し,運用することができる。 ・Unit5 Scene2の内容理解 【帯活動②】Who is the most famous Japanese in the world? <内容面>人物に関する情報を細かく伝えられているか。 <言語面>関係代名詞を正しく使えているか。	遂行 振り返り				
4	○関係代名詞(主格 which/that)の形,意味,形式を理解し,運用することができる。 ・Read and Think1の内容理解 【帯活動③】Whose image should be printed on yen bills? <内容面>人物の詳細が伝えられているか。理由を伝えられているか。 <言語面>関係代名詞を正しく使えているか。	遂行 振り返り				
5	○関係代名詞(目的格 which/that)の形,意味,形式を理解し,運用することができる。 ・Read and Think2の内容理解 【帯活動④】Who do you respect the most? <内容面>人物の詳細が伝えられているか。尊敬する人物のどのような点に着目しているのかを伝えられているか。 <言語面>関係代名詞を正しく使えているか。	遂行 振り返り				
6 本時	○必要な情報を整理,再構築して,ガンディーについて紹介することができる。 ・ガンディーを紹介する英文を考える。 ・Read and Think1,2を再度読み,紹介に必要な情報を形成,整理,再構築する。	遂行 振り返り				
7	○ガンディーの生涯と功績について紹介することができる。 ※プレ・パフォーマンス課題として実施 ・メモをもとに,ガンディーを紹介する英文を発表する。 ・振り返りをもとに,紹介に必要な情報を整理する。	遂行 振り返り 方略調整				
8	○多くの人に影響を与えた人物について紹介するために,必要な情報を整理することができる。 ・パフォーマンス課題のために必要な情報を調べ,メモにまとめる。	遂行 振り返り				
9	○多くの人に影響を与えた人物について,紹介することができる。 ・パフォーマンス課題への取り組み	遂行 振り返り 全体の振り返り	○	○	○	

パフォーマンステストについて

(1) 内容

「22世紀に語り継ぎたい Great Japanese Person 100」を作成するために、あなたは「A Japanese person who affected a lot of people (多くの人々に影響を与えた日本人)」について、スピーチすることになりました。事前に用意するものは写真とメモです。クラスメイトに向けて、写真を見せながら、メモをもとに英語で発表をしてください。

(2) 評価の基準(ルーブリック)

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	誤りがなく正しく関係代名詞を用いた英文を使って、自分を含めた多くの人々に影響を与えた人物について話すことができる。	自分を含めた多くの人々に影響を与えた人物について、その人物の生き方、自分や多くの人が影響を受けた理由を含めて、メモをもとに話している。	自分を含めた多くの人々に影響を与えた人物について、その人物の生き方、自分や多くの人が影響を受けた理由を含めて、メモをもとに話そうとしている。
b	誤りが一部あるが、コミュニケーションに支障のない程度で関係代名詞を用いた英文を使って、自分を含めた多くの人々に影響を与えた人物について話すことができる。	自分を含めた多くの人々に影響を与えた人物について、メモをもとに話している。	自分を含めた多くの人々に影響を与えた人物の生き方について、メモをもとに話そうとしている。
c	「b」を満たしていない	「b」を満たしていない	「b」を満たしていない

(3) 具体的なゴール(期待する b の姿)

Look at this picture. Do you know who this is?  
 His name is Matsushita Konosuke.  
 He is a person that affected a lot of people.  
 (He was born in Wakayama in 1894.)  
 (He studied and worked hard, and then, he invented a special lamp which has a long life.)  
 He is known as a founder of “Matsushita Denki.”  
 It is now called “Panasonic.”  
 I am sure that Matsushita Konosuke is the great Japanese person we should remember.

(期待する a の姿)

Look at this picture. Do you know who this is?  
 His name is Matsushita Konosuke.  
 He is a person that affected a lot of people **not only in Japan but also in the world.**  
**I respect him as a philosopher.**  
 (He was born in Wakayama in 1894.)  
 (He studied and worked hard, and then, he invented a special lamp which has a long life.)  
**(He named the lamp “a national lamp.”)**  
**(It became an essential item for Japanese people in those days.)**  
 (He is known as a founder of “Matsushita Denki.”)  
 (It is now called “Panasonic.”)  
**(The company produces many home goods.)**  
**(They support our life and, also the future.)**  
**Matsushita Konosuke, who is a founder of the company, left us a lot of messages.**  
**Here is one of them.**  
**“Never give up. Stand alone on the edge of the cliff. A new wind will blow.”**  
**His words always give me a power.**  
 I am sure that Matsushita Konosuke is the great Japanese person we should remember.

本時の授業について

- (1) 日時: 令和6年11月30日(土)
- (2) 授業学級: 第3学年2組
- (3) 場所: 家庭科室
- (4) 本時のねらい: 自分なりの考えを持つために教科書を読み, メモを見ながらガンディーについて紹介することができる。
- (5) 展開

過程	学習活動	教師による支援	主体的な学びのプロセスモデル	
挨拶 (1)	あいさつする	英語の授業に向かう雰囲気づくりをする		
導入 (10)	A Legacy for Peace What did Gandhi leave us behind?  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">Let's write a memo about Gandhi and introduce him to your classmates.</div> 教科書本文に書かれている情報をメモにまとめ, ガンディーをクラスメイトに紹介することを理解する  英文の意味と接触節の用法について確認する  自分なりのガンディーを紹介する英文を考える  ペアで発表しあう  Google form で紹介文を投稿する  スプレッドシートで共有する  発表する際の相手意識として必要な点について考える  「自分なり」の考えや意見を踏まえた紹介文を考えることを目標とすることを確認する	単元のタイトルと単元を貫く問いを板書する  本時のタスクを確認する  教科書 p.73 に書かれている, ジョシュによるガンディーの紹介文に着目させる He's a person Indian people respect greatly.  自分なりのガンディーを紹介する英文を考えさせる His name is Mahatma Gandhi. He's a _____ (1 or 2 sentences)  紹介文について振り返りを行わせる <言語面>接触節あるいは関係代名詞が正しく用いられているか <内容面>教科書本文に記載されている情報と相違ないか  本時のタスクに再び注目させ, クラスメイト(ガンディーについてある程度の知識を持っている聞き手)に対して発表する場合に内容面で意識したい点について考えさせる  Let's make your introduction personal.	目標設定       遂行       振り返り       目標設定 (方略計画)	
	展開 (25)	教科書 p.76, 77 を読みながら教師の発問に 応え, ガンディーについての情報や自分なりの 考えや思い等をメモにして書く 23 years old go out at night freely walk on the sidewalk no reason, discrimination	教科書を深く読ませるために, 補足の情報を与えたり発問を投げかけたりする When Gandhi moved to South Africa, how old was he? Around 1893, Indians in the Britain could not ...? Why could not Indians do that?	遂行

	<p>身分証明書の携帯義務, 宗教による結婚の制限などの事実があったことを知る</p> <p>follow the law use violence 1914</p> <p>45 years old produce salt sell salt</p> <p>about 25 days</p> <p>to make salt fight against discrimination</p> <p>自分の考えをワークシートに書く</p>	<p>What was the law the British made in 1906? Gandhi's message was "Don't ... but don't ..." The law was removed in ...?</p> <p>When Gandhi returned to India, how old was he? According to the law that the British made for salt, Indians could not ... and ...?</p> <p>How many days did they walk almost 400 kilometers for? Why did the walk to the sea? The Salt March was a new way to ...?</p> <p>What did Gandhi want to do [tell] through non-violent protest [movements]?</p>	
活動 (10)	<p>自分なりのガンディーを紹介する英文を考える</p> <p>ペアで発表しあう</p> <p>Google form で紹介文を投稿する</p> <p>スプレッドシートで共有する</p>	<p>本時のタスクに再度取り組ませる</p> <p>His name is Mahatma Gandhi. He's a _____ (1 or 2 sentences) I think _____</p> <p>紹介文について振り返りを行わせる &lt;言語面&gt;接触節あるいは関係代名詞が正しく用いられているか &lt;内容面&gt;自分なりの考えや思いが述べられているか</p>	<p>遂行</p> <p>振り返り</p>
まとめ (4)	<p>本時の活動の振り返りを記録する</p> <p>あいさつする</p>	<p>本時の活動で表現できたことを言語面, 内容面で振り返らせる</p>	<p>振り返り (方略計画)</p>

参考文献

- 国立教育政策研究所 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(2018, 3)
- 田中武夫・田中知聡 「英語教師のための発問テクニック-英語授業を活性化するリーディング指導」(2009, 7)
- 田中武夫・田中知聡 「主体的・対話的で深い学びを実現する!英語授業の発問づくり」(2018, 6)